

## 「生源寺家文書の紹介」

——その伝来と内容——

佐藤 眞 人

### はじめに

「生源寺家文書」は、累代日吉社（滋賀県大津市日吉大社）の社司を勤仕した生源寺家に襲蔵されていた記録文書である。同文書は現在生源寺家の手を離れ、諸方に分散しており、未だ所在不明のものも多い。近年その一部が國學院大學図書館に購入された。そこで現在管見に及んだところの「生源寺家文書」の所在と、同文書の伝来の経緯について述べ、本学図書館蔵文書の内容について若干の紹介をしたい。

### 一、「生源寺家文書」の所在

明治維新の当時、「生源寺家文書」を所蔵した同家の当主は生源寺希璵である。希璵は当時社司の筆頭職である正禰宜の地位にあった。また希璵の嫡子・希徳も明治二年四月に十五歳で権祝に補任されており、他の社司の多くが日吉社から離職していく中、

社司として止まり、後に大宮司に昇進している。同文書は恐らく希璵から希徳へと継承されたものと思われるが、その後同家の手を離れることとなる。

その経緯を述べるに、生源寺希烈（まゐりつ）の四男であり、希璵の弟にあたる希場（まれのぶ）という人物がいた。希場は『祝部宿禰氏図』<sup>(1)</sup>にも「希場（幼名清丸。称「嘉納作之助」。後改二保矩」。「と見えるように、神戸市灘の嘉納治作家の養子に入り、作之助と称している。この作之助の長女ふさが同市兵庫区今在家町の神田家に嫁しており、戦前ある事情により「生源寺文書」が縁戚関係にある神田家へ移されたという。<sup>(2)</sup>同文書は戦災を免れたが、戦後神田家が手離したため古書市場に流出し分散することとなった。

中谷保二氏らが同文書の散逸前に、神田家の依頼によって文書目録を作成していたのは不幸中の幸いである。目録は『神戸史談』に連載されたが、同誌の廃刊により未完に終わっている。そのため同文書の総点数は明らかでないが、『神道大系』<sup>(3)</sup>に再録された目録では第六〇四番までが掲載されている。現在発見し得たところの同文書に貼られた整理番号ラベルを点検するに、第八九一番までが確認される。<sup>(4)</sup>

同文書の現在の所在の究明は容易でない。管見に及んだ限りの所蔵先は左記の通りである。

- (A) 國學院大學図書館
- (B) 京都府立総合資料館
- (C) 日吉大社
- (D) 村上郷土資料館
- (E) 京都国立博物館

(A)は本学日本文化研究所の鈴木淳助教が伊賀上野市沖森書店において沖森直三郎氏の教示を得て見出されたもので、昭和六十二年に購入されている。二百三十一本の書籍に加え、多数の書簡・草稿・反古類があり、点数としては最大である。またこれとは別個に、東京神田の誠心堂書店より平成元年に書籍四点を購入している。(B)は昭和四十七年に木箱入りで一括購入したものであり、「生源寺文書」の名で所蔵されている。文書三十二通、卷子本三巻の計三十五点であり、中世文書が多数を占める良質な

ものである。尚、同館の文書解題<sup>(5)</sup>によれば、同文書を最澄生誕の地との伝説のある大津市坂本の生源寺の旧蔵としているが、まぎれもなく日吉杜家・生源寺家の文書である。(C)は日吉大社権禰宜であった嵯峨井建氏（現、賀茂御祖神社権禰宜）が古書展で発見され、同社に納められたもので、『長享秘密社参』『日吉祝詞口伝書』の二点がある。また同社には生源寺行丸自筆の『日吉焼失兵乱記』『日吉兵乱火災之記』<sup>(6)</sup>『山王威神力古今趣十二ヶ条』<sup>(7)</sup>の他数点が宝物として所蔵されているが、これも恐らく生源寺家の旧蔵書であろう。尚、同社では以上とは別に、神田家にあった同文書数点を昭和十八年に書写し所蔵している。現在原本の所在不明なものも多く貴重である。(D)は大津市坂本の村上忠禧氏が運営する同館の蔵書である。現在大津市の博物館建設室に寄託中であり、未整理の状態のため点数、内容は不明である。<sup>(8)</sup>(E)は旧東寺執行の阿刀家の当主であった故阿刀弘文氏が買得されたものと推測される。現在阿刀家の蔵書は京都国立博物館に寄託・寄贈されており、その中に「生源寺家文書」も含まれていると思われる。『大神神社史料』<sup>(9)</sup>に引用されている阿刀家蔵書中に見える『日吉杜禰宜口伝抄』『神道三輪流裁許状』『三輪一実神道書』『日吉一実神道相承血脉譜』『三輪流印信記』の五点が「生源寺家文書」であると思われる、他にも同氏の蔵書中に未紹介の文献が存する可能性がある。

(D)(E)については早急な閲覧、調査が困難な状態にあるので、(A)(B)についてのみその所蔵文書の一覧表を掲げておきたい。ただし(A)に含まれる幕末・明治期の書簡・草稿・懸軸・反古類は省略させて頂きたい。

&lt;表 I&gt; 國學院大學図書館蔵生源寺家文書

旧番号	書名	備考
65	神道雑々記 (廊御子之事在)	一、江州下坂本戸津両社之事 二、日吉之廊之御子之事 三、内侍処灌頂 四、神道灌頂三輪流諸印信
59	神道作法 (秘法之大事)	
—	諸礼之作法 (諸礼次第)	
365	日吉社司位階之記	一、祝部氏位階古記略之覚 二、生源寺主膳位階之定 三、位階之官物諸事覚
168	日吉神事之覚 (末代仁至迄テ書印物也)	
190	日吉社官位階記 (日吉社宮仕位階記)	
121	山王秘法類抄出記	山王七社惣咒 山王一印法 山王灌頂 山王神秘法 鎮国祭場神秘神樂大事 菅神勸請儀
66	神元記	一、神道大意 二、教児抄
476	諸赦免之覚 (万記)	諸社神主赦免状之写 神道三輪裁許状
—	装束着用抄	束帶着用次第高倉山科二家
170	日吉社服忌并諸通用	一、日吉服忌令 二、東照宮服忌令覚
—	〔図書寮藤井義豊・義信・義寿・義敬年譜〕	
67	日吉密記	
—	多賀古城壺碑考	
41	諸社祠官系譜 全	
201	山門諸入用ニ高掛り高成百姓名数帳	宝暦十四年甲申三月
61	山王宇志丸伝	
429	生源寺左門本帳	
433	本帳	貞享四丁卯年十月廿日
434	本帳	
844	〔公卿補任 嘉永二・三年〕	
848	公武年表艸 (自天正元年至天保二年)	

## 81 生源寺家文書の紹介

51	和田九右衛門祝部行廻系図	
52	樹下鞆負佐祝部尚俊系図	
53	(堅田) 藤田安兵衛祝部行雄系図	
26	当家近代伝	希璵抄録
474	希烈家督記 (文化四丁卯年)	
298	慶応二年正月日吉社司次第 附 慶応二年丙寅日並記 (希璵)	文久元年七月希璵識
293	日吉社惣官次第考証 案	
115	三元中壇秘儀次第 上	
117	陰陽壇秘儀次第	
530	和光同塵灌頂切紙十帖 (印明並鳥居文二帖)	
92	大日枝三和神道祭法伝受系図	行整記之
787	八所大明神祠官江伝法	
—	唐崎大明神正遷宮法則	文化八年豪恕艸稿
—	大黒夷考	
805	一念成仏儀	最澄述
492	希烈正三位願記 (嘉永二年)	業雅記
220	日逐權登	一、中宮御方太子御降誕事附崩御触穢事 二、愛宕山大火事 三、紀州侯隠居清信印殿内々御祈禱事 四、刑部少輔殿位階願違ニ付願直シ事 五、仰木社閏月祭礼事 六、青門様御拝礼事 希烈書 生源寺家記
256	八王子社鍵箱白封一件 (天保十一年庚子三月)	
—	江戸大地震	安政二年十月七日
808	佐々木家殿	源明德 紫野今宮神主
811	備前家在府之者より御国元江申上候書付	
460	生源寺故主膳正家督之義ニ付親類惣代西川五郎右衛門并後家ヨリ一山江及出訴候ニ付社司中ヨリ返答書執行代江差出ス留	
—	和字抄	文政七年希璵写
806	公寛親王公遵親王公啓親王公顕親王御附弟成勤方覚記	
—	資範資光関東下向記 (元禄十年)	
720	詩説并雜記	
468	知行方	生源寺家雜掌
49	凡河内氏部	

32	〔無題〕	
799	聞書之記	
—	雑事記	
274	攘夷御祈之記	嘉永七年三月
379	御拝社之留 (武家宮方)	寛政十二年
—	当家旧代伝	
471	文化二年乙丑日記	希烈記
484	天保九年日記 同十年	惣官家
478	文政八年日記 乙酉	
35	日吉社社司成一流近代家伝	明治三年閏十月正神主茂国
47	梨本御系譜	天保二年五月書写 希璵
510	明治辛未二月四日上知達書写	惣官手元扣 希璵記
273	新日吉社注文 (明月記一紙)	今小路家蔵
202	秘密参社口伝記 全	明和六年九月 祝部行雄書之
800	東照宮記	正徳五年 正禰宜行茂記之
—	□□年中行事	文政十三年三月希烈撰
289	万延元年四月座主宮昌仁親王御拝賀記	正神主從三位希璵録
82	摩多羅神考	
106	御流神道三才和歌秘伝 全	元文三歳三月覚深誌
297	元治元年新日吉社正遷宮記	元禄七年霜月書之
808	奉行所江渡り候御書附如左 覚	
305	日吉社由緒注進	明治二年十一月希璵草之
306	日吉社年中行事	明治二年七月 社司中
304	日吉神号改称伺書之写 并両所塔取除之事	明治元年九月 社司中
759	祖父君随筆 系譜類	
120	命尊神	乙卯元年抄出 希烈
713	西游紀行	
772	文意戲遊 卷之三	
616	天保十四年癸卯	繆良仙撰 七月四日写 (歌集)
809	〔無題〕	
714	喩苑	琵琶湖栞子彦方抄
774	室寿	一、内田早苗本文 蒿蹊述 二、神名解 希烈謹抄 三、月下梨花 曹□海
—	貞応記古系跋 〔他〕	
—	〔無題〕	(歌集)
715	詩句□課 和歌部	
681	安政乙卯草稿	(希烈)
—	西隠書画記 〔他〕	星鈴梅客稿
—	〔無題〕	嘉永五年二月広徳寺謹誌

## 83 生源寺家文書の紹介

717	〔無題〕	祝希烈録
—	汎亭雜抄	七月 宮仕中
—	〔口上書写〕	
878	〔無題〕	
—	〔和名抄〕	
—	西湖往話	
—	〔千字文〕	
—	篆刻	天保九年八月祝部希烈
718	四月二十三日偶成	星嶽上士任節未定稿
—	濫觴抄	天保五年書写
828	外物 二	山田忠貞
260	社職考証記	天保十五年正月生源寺希烈
—	祝部氏禰宜正統記 〔抄〕	日吉社奉官幣異同考
—	〔無題〕	文久元年希璵記之
—	〔無題〕	一、越前国気比宮 希烈
—	〔無題〕	二、躑躅考 戸田保遠
—	四柱大神日供祝詞	三、鳥原之旧地
88	神道事務分局ヲ阪本村ニ復之議写	安政二年九月記之 希璵
307	日吉社 四月祭官幣使	戊辰二月四日草案他
301	〔無題〕	明治十年十月写 琴舎
797	妙法院門跡 (号新日吉門跡)	明治十四年一月 生源寺希徳
798	青蓮院門跡	明治二年十一月 社司中
299	日吉社群書目録	〔社司家族の名簿〕
475	客人社開蒞差止一件記	
167	日吉社服忌令	慶応二年三月生源寺希連写
74	日吉社正遷宮次第	生源寺家
—	内願書 鴨社神官泉亭俊彦	寛文十一年正月生源寺宮内介写
95	日岐目之秘訣	文政六年十一月生源寺希烈遣之
291	正和二年二月神輿御造進之事 管見記	明治十五年六月 泉亭俊彦
308	日吉社服忌令 全部	草案也
300	口上書 日吉社未之御供本	文久元年五月抄之 希璵
302	上浜坂本末社現在之記 抜書	明治辛未年二月書写 希璵
233	日吉祭類典	慶応四年四月山王町年寄
514	今時之家祿	
801	東照宮鎮坐考	天保四月十一月
—	夷大黒考	日吉社司中
—	越俎晤言 (一家念佛論)	生源寺藏
77	山王秘記 (正和元年注)	安政六年十一月書 希烈
		天保戊戌四月 一実居士
		文政六年五月写之 祝部希烈

533	日吉社領并神職姓名秩禄簿	庚午八月 生源寺五月
107	金剛秘密山王伝授大事	寛永四月六月写之 竹院成憲
97	大黒天神秘記	生源寺家蔵
241	日供御領 社司中惣納 収納方百姓付	文政丁亥年 生源寺越前守家令
255	日供御領惣納領 収納方百姓付	天保十一年十一月 庄務希璵
263	弘化二巳霜月日吉旬申領色紙領収納帳	子谷上総
277	安政貳年午卯十一月日吉社日供御領并惣納領収納帳	
284	安政五年午十二月日吉社日供御領并惣納領収納帳	
279	安政三年辰十一月 収納帳	
278	安政貳年卯十一月旬申御供料 御家領	
288	安政六年未十一月旬申御供料 御家領収納帳	
283	安政五年午十二月収納帳	
294	文久元年辛酉十二月収納帳	
292	文久元年辛酉十二月収納帳	
296	文久三年亥十二月収納帳	
290	万延元庚申十一月収納帳	
495	乙卯客開日記	
793	樹下家連々養子記	惣官家用
—	秘密社参服忌令	行整家記
214	行用 全 (天明三癸卯年十二月)	一、三元加持次第
206	公儀之控 (安永八亥年五月より)	二、六根清浄大祓 行整
451	安永三年歳九月 従三位業徳卿死去ニ付	行整記之
463	閏月日供米一件 (寛政己酉年十二月)	行整
458	旬申領八箇領色紙領四家知行成物納高控	行整記之
461	美濃国長滝寺白山権現神主伝法之記	天明二月五月 行整記之
529	近代宮仕仲参社之記 全	天明六年八月 行整家記
209	鎮守奥護因社遷宮諸式記	行茂自筆ノ記録
57	秘密参社記	安永八年九月 行整記之
3	日吉社司系図	行連宿禰筆
—	行丸宿禰筆雑々数帋	宝暦十一年三月祝部行光
—	白鬚社太々神楽相伝之記 (天保七年興行)	生源寺家記

## 85 生源寺家文書の紹介

791	近江志賀郡白鬚大明神社略縁起并奉加帳写	
—	近江国名所古蹟題寄	天保十一年十一月徒然庵
127	日吉伝記 全	祝部行茂写之
—	山王諸社縁起	乙亥年卯月 戒光院
—	山王記 (祝部行丸記十一通合为一冊)	酉ノ六月 庚正
133	山王新記 (神輿入洛 五卷之内)	宝永四年十月 行茂写之
126	(貞応之内)山王紀 全 (又ハ耀天記トモ)	天保元年八月 生源寺行茂
131	山王新記 (活套五卷之内)	宝永四年九月 祝部行茂
85	一実秘記	祝部希烈校
86	仮字御問答 全	一、一実神道御問答訳文序説 二、御問答記 祝部希烈書
101	密印口伝 (他見ヲユルサス)	一実文庫ニ納
—	辛未壬申詩案 (星鈴漁唱)	辛未九月 祝希烈延耀稿
619	咀華集	祝希烈録
643	幽独晤言 五	祝希烈延耀著 男希璠之再録
—	冬日雜述	星鈴 祝希烈稿
—	幽独晤言 卷之九	祝希烈延耀著
—	確言	祝希烈筆鈔
—	壬寅備忘録	星鈴
—	東照宮日所作法	祝部希璵写
215	行用 (船路社家之相伝也)	寛政辛未二月 祝部希声 授者二ツ鳥井社家堀田右京
518	当家一之文庫目録 (生源寺家蔵)	祝部希璵謹記
179	弘化三年日記 (四年五年)	在京寓居備忘
523	享祿両年 桂枝沿革記	希璵抄録
—	家学備忘	天保三年閏十一月 希璵
—	以文会筆記抄	草池座右
—	記伝筆抄 庚午春	寒香三位座右
—	家君星翁小伝	希璵謹誌
105	秘密社参 秘密印相二事ニ付テ聞書	行整家記
—	秘密参社先達伝法系図	行整家記
804	三和流守札符之案	行整記之
—	清祓行事法	祝部行整宿禰写畢
262	大祓詞古伝	祝部希烈十六歳撰并書
63	神道妙行護摩供次第	元禄十一年 祝部行茂奉修
122	当流神道問答	
46	輪王門室略伝	
—	行事記 并地祭札有之	天和二年九月

116	倭姫命世紀 全	祝部希珩写
114	鎮魂法 (灌頂秘法)	
—	〔阿婆縛抄薬師法〕	希璵秘藏
802	東照宮入札帳	
470	開不開争論之留 卷之二	文化二年
119	梶井流大塔流神道相承血脈	
109	紅葉赤山影響秘奥密記	
113	三天秘考	祝部希璵草書
200	日供領惣納請取帳 (宝曆十三年十月十八日)	
464	勘例之覚	寛政二年五月
477	文化十四年家記	
108	中壇祭祀次第 全 秘中神秘	琴御館家流伝法
—	山王灌頂次第 (和光同塵灌頂次第)	
—	水口大宮之控元之事	
87	〔大祓詞注釈〕	祝希烈講案
285	日吉社御祈之所	安政三年五月 成節宿禰執筆
—	御祈次第	
—	攘夷御祈正禰宜奏御教書之旨祝詞案	安政六年
—	豊秋津嶋卜定記 全	業雅寄付
—	琴譜	
—	海部郡大里村末年御年貢御高物成御請帳	明治四未年八月
544	祝部氏倭歌集	
228	庚申待法樂謠 (希烈亭兼題草案 文化十年)	兼清写藏
615	癸卯草稿 三卷之内 (天保十四年)	
671	嘉永四年草藁 辛亥	
670	香雪小集 (嘉永四年辛亥)	
337	平田翁贈伴翁書 全	慶応二年祝部成親写 明治四年十一月祝部成行写
680	安政甲寅乙卯詠草 (安政二年)	
685	安政二年乙卯三年四年五年戊午詩文草案	
—	日吉社古代造営	戊辰十月 父希烈 倅希璵
—	奉願口上覚	戊辰十月 日吉社司中
—	奉願口上覚	文化二年二月
—	松尾社職次事	明治十年六月
—	抵当確証	
—	客人宮神輿造営法樂次第	天保六年五月希烈双鈎
—	三元壇神儀	嘉永元年七月改書
—	当家近代靈位	

## 87 生源寺家文書の紹介

誠心堂より購入分		
—	平田翁破仏論 全	己巳十月写寒香園希璵
—	伊吹能舎先生著撰目録	天保六年十二月
—	荒神祓 持祓串口伝	
—	大黒天秘記并片供私記	天保十一年八月授者 大隅守希璵

1. 旧番号は『神道大系 神社編29 日吉』所収中谷保二氏他「神田兵右衛門氏所蔵 日吉文書目録」の番号に一致する。
2. (     ) 内は内題・副題等。[     ] 内は仮題。
3. 備考は奥書・小題等を抄出。
4. 未整理の状態であるので架蔵番号は付してない。

&lt;表II&gt; 京都府立総合資料館蔵生源寺家文書

番号	書 名	旧番号
1	嘉暦三年正月十八日付波々伯部保公用々途請取	
2	嘉暦三年正月二十一日付波々伯部保公用々途請取	739
3	文和元年十一月朔日付権少僧都某奉書	
4	至徳四年六郎三郎餅田年貢請取	417
5	応永六年大上坊某書状	
6	応永二十六年卯月二十六日付国□奉書	751
7	文安三年六月七日付五郎三郎夫賃職請文	
8	文安四年十月七日付室町幕府御教書案	726
9	文明十年十一月十六日付室町幕府奉行人連署奉書	155
10	明応三年十月二十九日付某代官職条々請文案	418
11	文正元年四月十七日付室町幕府御教書案	727
12	永正元年八月八日付室町幕府奉行人連署奉書	729
13	永正六年六月十八日付室町幕府奉行人連署奉書案	728
14	天文二十四年三月十九日付室町幕府奉行人連署奉書案	731
15	寛永十五年四月二十五日付山王権現社務樹下言上案	895
16	三月二十八日付元浄書状	
17	四月十一日付秋元富晴書状	
18	四月十九日付堯円書状	740
19	六月十六日付飯尾加賀守宛書状	741
20	六月付権僧正盛憲書状	
21	七月十八日付□泰書状	749
22	八月三日付つしはらこしち書状	745
23	八月十九日付祇園社執行宛清光書状	906
24	九月一日付岡本保白書状	747
25	十月二日付岡本保白書状	748
26	十月十四日付山門根本中堂閉籠衆執達状	
27	十一月十一日付西念寺松阿書状	
28	十二月二十九日付某書状	755
29	回章 堀河	896
30	洛中加地子注文	737
31	某書状	
32	日吉惣官次第	23
33	行丸宿禰筆天正十八年条々	891
34	行丸宿禰筆尊像秘密記并諸案	159
35	美濃国方県郡則武村氏神事（天正元年二月十六日）	420

1. 番号は京都府立総合資料館生源寺文書の整理番号。

2. 第33-35番は卷子本。他は文書。

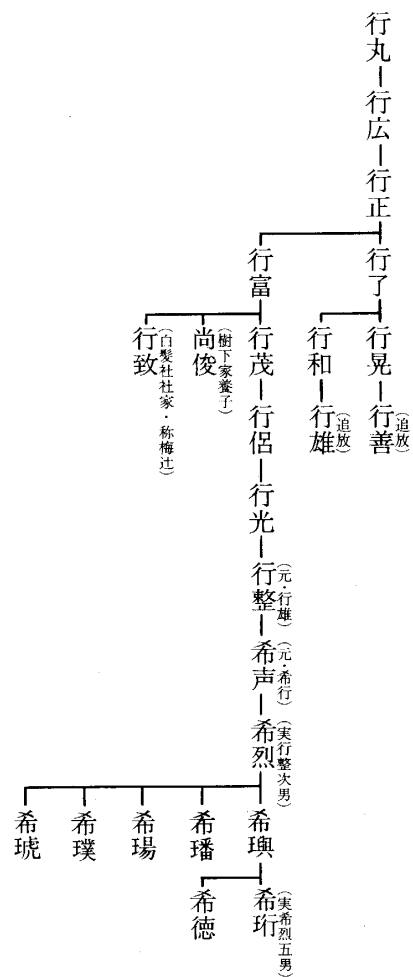
3. 旧番号は<表I>に同じ。

## 二、江戸期の日吉杜家と文書の伝来

日吉杜の杜家は古来祝部宿禰を名乗り、賀茂県主と同族であると伝えている。平安中期の石遠、希遠の兄弟から二流（左方・右方）に分れ、後世前者の末流が樹下家、後者のそれが生源寺家となった。日吉杜は元龜二年（一五七一）九月十二日織田信長の軍勢による比叡山焼打ちにより、杜頭百八杜・杜外百八杜は残らず灰燼となった。中世日吉杜の事実上の終焉となった事件である。当日大宮杜殿内陣に参籠中であった生源寺行丸、その長子行広、樹下資繼、樹下成前の四名は、着衣を剥ぎ取られ赤裸とされながらも、永原越前守重虎の助けにより辛うじて露命をつなぎ逃走したという。他の杜司も『日吉兵乱火災之記』に「惣杜家中五六十人并妻子、下人等以下数多之老若、方々へ逃散而、夫婦之離別、父子、兄弟不知<sup>レ</sup>行跡一者也。」と記すように四散し、多くが殺害されたものと想像される。乱後、行丸を中心に日吉杜復興事業が起されると、上記四名の他にも数名の杜司が帰参しているが、後世の日吉杜家はいずれもこの四名の末裔である。慶長十七年（一六一二）には「杜家子孫他国より罷出候共、本座<sup>江直申間敷事</sup>」<sup>10</sup>との掟が作られ、近世の日吉杜家の基礎がここに固まることとなった。

その後、貞享元年（一六八四）の日吉杜司による神像焼却事件が起る。これは当時、天台宗の日吉杜支配と山王一実神道に反発し、吉田神道に傾倒していた杜司・樹下成規（成康）、生源寺行連ら数名が、山王七杜に祀られた神像を撤去し、京都において焼却した事件であり、その結果成規、行連らの当事者が遠嶋、追放に処せられている。この事件を機に従来七軒あった杜家は四軒に制限されることとなった。以後、日吉杜家は生源寺家二流、樹下家二流となり、幕末に迄至ることとなる。この杜家四流の系図を諸書から摘記すれば左記の通りである。<sup>11</sup>

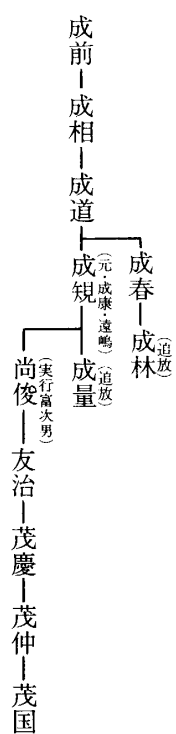
○生源寺家(イ)



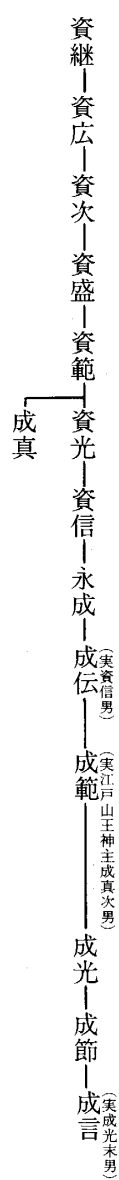
○生源寺家(口)



○樹下家(イ)



○樹下家(口)



## 91 生源寺家文書の紹介

「生源寺家文書」は奥書等によれば生源寺家(イ)に伝来したものであることは明らかである。同文書は中世文書や行丸自筆文書を除けば、大部分行富・行茂・行侶・行光・行整・希声・希烈・希璵・希徳らの自著や筆写本である。

他家にも伝来の蔵書が存する筈であるが、不明な点が多い。生源寺家(ロ)は貞享事件で大きな痛手をうけており、処罰された行実の名跡と行連の屋敷を江戸山王神主日吉業属の男、業明が継いでいる。<sup>(12)</sup> 当家の蔵書は、『社司正禰宜惣系図ニ請書之上書継可申事 草案』(日吉大社蔵)に、

明和六<sup>丑</sup>ノ年十一月八日寅ノ刻、生源寺三位業徳ノ宅裏部屋ヨリ出火。本宅不残焼失。仍之貞享年中相残り候記録共、ナオ又其外貞享以来記録共モ一時焼失事。

と記すように、明和六年(一七六九)の火災により全て焼失している。当家の蔵書は現在所在不明であるが、こうした事情により明和以前の文書、書籍は伝わらないものと思われる。

因みに國學院大學図書館には「生源寺家文書」とは別に「生源寺業功文書」が所蔵されている。業功は嘉永五年(一八五二)の生まれで没年は未詳であるが、明治期は日吉社に止まり主典を勤め、<sup>(13)</sup> 同文書によれば大正六年まで生存が確認される。同文書は昭和六十三年に岡山市の書林牽牛庵より購入したものである。同文書の目録も掲げておきたい。中でも日吉社の宮仕法師の由緒を記した『実泉物語』(第四九号)が江戸中期頃の写本であることを除けば、他は概ね幕末・明治・大正期の写本・版本である。写本は業功の手によるものが大部分を占めており、業功の個人的蔵書という性格が窺われる。

&lt;表III&gt;生源寺業功文書

仮番号	書名	備考
1	日枝社記	
2	祝詞集 附靈祭文	明治二七年拾集但業功の稿ニ係る分
3	六月兼題 蕪録	
4	発句	明治四年八月十四日生源寺業功写
5	童蒙入学門	
6	竹取物語登天段	明治四年八月三十日業功写
7	大原野社記 抄出	明治三庚午五月廿七日写了祝部業功
8	生涯行状	明治三歳庚午菊月下旬写之
9	戊辰十月御布告之写	
10	八雲神詠	明治四年十二月十四日写畢業功
11	奉願上候口上覚	慶応四年六月
12	四月祭被立官幣先蹤	明治六年冬十一月写業功
13	〔布令書三通写〕	己二月
14	〔白毫院社司中往復書簡写〕	戊辰四月
15	己巳五月十五日志賀八幡神主園兵部 ヨリ来廻達	
16	〔日吉社司届書写〕	戊辰六月
17	日吉社外末社区別 上下坂本 合冊	明治四辛未年十二月十七日再写業功
18	説教目的 全	野間正綱謹校 明治九年四月二三日謹写業功
19	一社近代編年略記第一編甲	明治二三年三月脱稿
20	日吉社内末社祭神由緒	明治五年三月十八日写畢業功
21	日吉社禰宜口伝抄	
22	日吉社里神楽秘譜	
23	東海道名所詩 東海道名所図絵祓萃	明治四年辛未八月二七日写畢業功
24	臨時祝詞集	生源寺業功
25	世事要言 完 明治六年十二月成	明治十二年三月二二日写業功
26	(報徳教会) 道志るへ 初篇全	福住正兄識 明治十年三月廿九日写し畢業功
27	教場必携	秋山光條謹述 明治八年十一月廿八日写畢業功
28	御布告類写	明治五年壬申三月十二日清書業功
29	白鳥陵御笠殿社由来記	平田篤胤 明治三年十二月中業功写
30	日吉社旧社領由緒書	
31	天竺国開闢略記 全	文化元年藤原村輝謹書 明治四辛未年四月十四日写畢祝部成 行

## 93 生源寺家文書の紹介

32	紫女七論 全	文政二己卯歳六月十一日写之樹下成範
33	大和姫世記 全	
34	翁伝	明治三十六卯年一月廿四日写之業功判者希烈卿
35	褒貶歌合 萬延元年六月	万延元年写畢祝部業親
36	文明八年賀茂社炎上記	明治三年六月写業功
37	通宝論	嘉永三年松浦道輔草
		明治四月春二月十八日業功写之畢
38	鞆考証	嘉永五年七月うつす祝部業雅
39	要文艸案 明治二十三年六月	
40	神異紀聞 初編上下	稻葉正邦撰
		明治九年十一月十四日写し畢ぬ業功
41	古来ヨリ官位 日吉社司中	
42	滋賀県下近江国坂田郡名越村鎮座後鳥羽院天皇御靈像故事記	
43	朝野新聞被萃 明治十三年一月ヨリ	生源寺業功
44	慶応四年日記 戊辰	祝部宿禰業親記
45	明治三庚午年日記 從三月到十月	希徳記 業親蔵
		明治四辛未年正月写業功
46	源氏の哥ぬき書	
47	日吉社禰宜口伝抄	
48	湖林風相与清絶	文政十三年庚寅夏六月生源寺越前守家蔵版
49	実泉物語	
50	新撰帝説集 全	明治天皇十四年十一月騰写業功
51	鈴屋翁略年譜	本居大平
		明治八年五月十七日写畢業功
52	太宰府天満宮故実	明治十二年一月廿四日写畢業功
	菅家寔緑竹集 合巻	
53	気吹之屋歌集	明治十一年七月二十一日業功
54	毀誉相半書 全	天保五年平田鐵胤
		明治十三年春晚三十一日業功
55	(標注)職源抄校本別記 上下	近藤芳樹撰
56	官職続浮説或問 全	明治三十癸卯年二月廿五日写之業功
57	昔伝拾葉 上下	宝永六年壺井義知
		明治十四年一月二十八日書写業功
58	番匠記	天正十八年庚寅年十二月禁裏御大工棟梁木子守康
		明治四十年一月十七日書写業功
59	桂葉累塵	
60	日吉社秘密記	天正十九年祝部行丸

61	門院伝 略 全	明治三庚午年五月十八日業功写了
62	幼童読書次第	玉松操
63	三大考弁々	明治三庚午十月十三日写業功 文化十三年阿都多禰 明治六年十二月三十一日写之畢業か フ
64	東照宮鎮座考略記	文久三年之
65	百八社神名録	明治三庚午年正月五日写
66	葬祭略式 完	近衛忠房・千家尊福攷定 明治六年十一月十一日謹而写之業功
67	仏伝法師対問〔他合綴〕	明治四年秋八月十八日写認業功
68	唐崎神社并靈松之原由	明治十二年滋賀県庁へ差出
69	歌集	
70	大山咋神御鎮座并御事歴御功德抄録 〔他合綴〕	
71	土山神幸行記 単	矢野先生著 菊地和意謹写 明治四辛未年秋八月廿八日業功写之 畢
72	柳秘看独集 杜家方之分抜書	明治三庚午五月廿九日写之業功
73	秋声賦	
74	神話集 全	安政五年平玄道敬抄 明治九年四月廿五日業功謹写
75	延喜式祝詞註釈	
76	日吉御祭神勤参役由緒記 未御供本山王社日吉社々記	合冊
77	神教要旨略解	近衛忠房・千家尊福謹撰 明治九年卯月十一日写し畢ぬ業功
78	長州浪士建白二通〔他〕 元始祭式・孝明天皇遙拝式〔他〕	合冊
79	遊壺笠山記	
80	宝治百首	明治十二年十月三十日写之畢業功
81	西川氏系	明治三庚午年二月写業功
82	〔無題〕	
83	官幣国幣社祈年祭式〔他〕	
84	録講	明治七年二月十七日業功識
85	箱根山温泉記	明治四年秋八月十三日写業功
86	日本年代系図記	明治三年十一月写畢業功
87	弘文天皇御陵見込書	明治九年滋賀県第一課 明治十一年九月六日書写之了業功
88	形勢論	慶応二歳 大内正雄稿

## 95 生源寺家文書の紹介

89	官幣社神名考	明治三庚午年六月十三日謹写業功
90	(滋賀郡) 式内社私考	明治八年四月十四日書写之了業功
91	上賀茂社伝奉幣次第	慶応四年戊辰八月祝部希璵謹述
92	日御崎社記 全	明治三庚午六月十五日写畢業功
		明治十二年冬十一月二十六日書 写之畢業功
93	外樓自訴	
94	建部神社略縁起并日本武尊御伝記略 (稿)	明治廿一年六月廿日業功謹編輯草
95	水猷策併海防十箇條	
96	[無題]	抜書類雜綴
97	[延喜式神名帳]	
98	日吉社勅伝射術記	享保八年七月祝部行茂在判
		明治廿二年六月廿二日業功
99	御布告 神社規則 神社禄制 氏子取調	明治七年第四月十九日謹写業功
100	御布告写	明治六年第十一月廿八日写業功
101	光海靈神碑銘	明和四年五月賀茂真淵撰
		明治四年ノ八月十二日写業功
102	小野の小町角力哥	
103	気吹廼舍塾則	明治十年三月写畢業功
104	卯月祭正禰宜祝詞案	
	同未日小比叡禰宜祝詞案	
105	日吉降臨鎮座次第	
	千家亀麿葬祭	
	函館皇典講究所分所開業式	
	日吉神社古式勅祭願〔他〕	
106	案	生源寺希璵卿書
		明治四年十二月十五日写業功
107	日吉社禰宜口伝抄	
108	日吉神社鎮座正義 完	大正六丁未年七月業功令写
109	字彙卷首	
110	歌集	明治三十三年輯之
111	競点和歌	明治三十八年輯之
112	ひ奈鳥集	明治廿六年十月類集之
113	(大己貴命御上ノ少彦名命御上) 幸魂 奇魂之事	文政六年十月廿六日は香
		嘉永二年閏卯月廿二日写畢祝部成光
114	萬葉別記抜書	明治七年一月二十五日写畢業功
115	賀西秋谷翁八十誕辰詩 四拾二首	明治二十一年三月
116	番匠木子家ニ係ル旧儀復興ノ儀并木 子家ノ経歴ニ付具申書	

117	〔無題〕	合綴本
118	神代卷竟宴和哥集 全	明治四年辛未十二月廿五日業功写
119	善惡報応論	明治七年一月十二日写了業功
120	太平遺響 二編	明治十一年仲春写于案婆礼屋畢業功
121	太平楽府	明治九年十二月九日書写之畢業功
122	奉願口上覚	明治元年九月社司中
123	奉願口上覚	
124	〔書狀二通写〕	
125	新嘗祭之論 全	紀元二五三三年十一月大講義安江静 敬記 同年十二月十二日写
126	位階 日吉社中	明治五年壬申正月十八日写生源寺伊 都伎
127	球上一覧 上	野之口隆正撰
128	球上一覧 下	明治十一年二月十日書写之畢業功 野之口隆正撰
129	〔無題〕	明治十一年二月十日書写之畢業功
130	翁物語 卷上	明治二年九月・十月の日記
131	翁物語 卷下	卷中を含む
132	事物典故 卷之上	
133	事物典故 卷之下	松靄山房藏書印 天保四年癸巳夏六月装釘 松靄山房所藏 元禄十七年野瀬正平識
134	猶秘録 上卷	
135	猶秘録 下卷	
136	勅題歌 附月次御兼題歌	自明治十年
137	三条演義 全	官許中西源八藏版 明治六年十二月十三日書写業功
138	予美考証 完	明治三年平玄道 明治七年一月十日 写之畢業功
139	天説弁	文化十三年小林茂岳 明治六年十二月二十五日写畢業功
140	神教要旨 全	
141	日吉社神能考	大正三年一月一日業功輯
142	一社近代編年略記 第一輯稿 第二輯稿	合冊
143	教典訓法章程・教書編輯條例 全	明治六年九月六日書写之了業功
144	年中神拜略記 全	近衛忠房謹述
145	中臣祓詞要解 稿	文政六年伴信友 明治十三年九月十九日騰写之畢業功
146	津嶋祭記	明治四年秋八月十三日業功写
147	武教小学 全	
148	唯一問答書 上	

## 97 生源寺家文書の紹介

149	延暦寺大衆上表并願書写	寒香園藏 藤井国士写
150	歌合	
151	〔歌集〕	
152	大教安心論之概略 全	大講義田中知邦謹述 明治九年九月業功謹写
153	神教綱領 全	近衛忠房謹撰 明治十年二月写了業功
154	神字真艸五十音図	明治四辛未年冬十二月六日業功写
155	産須那社古伝抄 全	安政四年六人部是香記
156	大帝国論 全	竹尾正胤述 明治十一年一月十日写畢業功
157	賀茂建角身命裔起源 泉亭家記	明和二乙酉鴨県主俊春印 明治四辛未年仲冬十三日写了業功
158	教会新聞祓粹	明治十年二月十六日祓粹之畢業功
159	神事略式 全	明治十年三月廿五日写之畢業功
160	延喜式祝詞	弘化三年十一月十六日抄之畢祝部業 雅
161	心学道志留遍 全	中講義柴田遊翁述 明治九年十二月十九日写し畢業功
162	〔歌集〕	
163	教院講録 第壱号 (紀元二千五百三十三年第七月)	権大講義西川須賀雄 明治六年十一月十四日写畢業功
164	〔書状他 十一通〕	

\* 書名欄 ( ) 内は細字 [ ] は仮題 / は割書

樹下家(イ)の蔵書についても、「生源寺家文書」「生源寺業功文書」中に樹下家から借用筆写した本が散見されるので、何らかの蔵書は存していたことが確認されるが、現在所在は不明である。

### 三、「生源寺家文書」の内容

生源寺家文書は元龜二年の日吉社回祿という歴史的事情により、残存する中世文書は極めて少ない。その殆どは京都府立総合資料館蔵「生源寺家文書」に存する。この中で最も年代の遡る文書は、鎌倉末期の「嘉暦三年正月十八日付波々伯部保公用々途請取」(第一号)である。同館蔵の文書は、祇園社が日吉社の末社であった関係から蔵される、こうした若干の祇園社関係文書他に、日吉社司宛の室町幕府連署奉書や書状類がある。また第三十三・三十五号は、行丸自筆の日吉社再興関係文書である。

國學院大學蔵の文書では、『行丸宿禰筆雑々数帙』(口絵写真参照)が最も古いものである。写真の同書は行丸が日吉社再興を期して、焼失前の日吉社の状況や、失われた古縁起の内容を記録に基づき書付けたもので、これを数紙継ぎ合わせて一巻としている。日吉大宮の神が天津浦に漁舟に乗って顕現した図や、大宮川の波止土濃(橋殿)の図も描かれており、行丸が晩年(天正十年)『日吉社神道秘密記』を編纂した際の、原資料の一つであると思われる。

同書を除いては、行富以降の江戸・明治期歴代社司の編著、或いは書写した文書、書籍である。文書の内容の一端を解説する余裕はないので、大まかな分類を示せば、(一)日吉社・社家関係記録文書 (二)山王一実神道・両部神道・吉田神道らの諸流の神道書 (三)希声・希烈らの歌詩文集・拔書類 (四)その他 となる。以下に該当する文書、書籍を幾つか挙げておきたい。

#### (一) ①年中行事・神事・祈禱・服忌

『日吉社年中行事』『□□年中行事』『日吉社 四月祭官幣使』『御祈次第』『日吉祭類典』『日吉神事之覚』『日吉社服忌并諸通用』『日吉社服忌令』

99 生源寺家文書の紹介

生源寺希烈の刻印（原寸大）



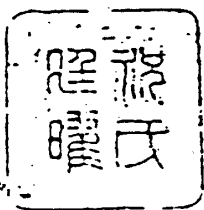
希烈

P. 2 右



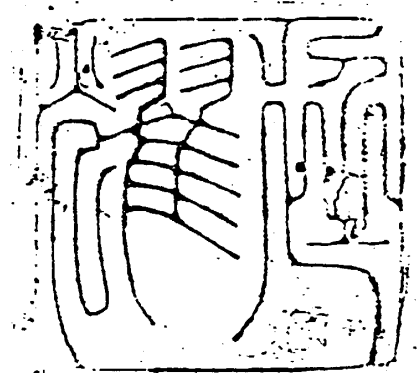
祝烈

P. 3 左



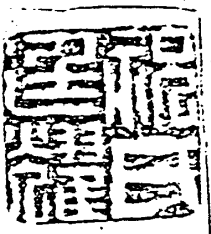
祝氏延曜

P. 10 右



延曜

P. 2 左



祝氏延曜

P. 9 右



星鈴外史

P. 7 右



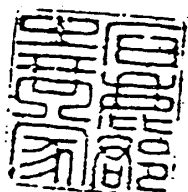
星鈴

P. 6 右



草佐居士

P. 12 右



石鹿郡之琴家

P. 8 左



星鈴

P. 6 右



草佐

P. 11 左

（國學院大學図書館蔵生源寺家文書『篆刻』より）

## ② 社伝・社記

『日吉社古代造営』『日吉社由緒注進』『上浜坂本末社現在之記抜書』『山王諸社縁起』

## ③ 坂本東照宮

『東照宮記』『東照宮鎮座考』『東照宮日所作法』『東照宮入札帳』

## ④ 社司の日記

『文化二年乙丑日記』『文化十四年家記』『文政八年日記 乙酉』『天保九年日記』『弘化三年日記』

## ⑤ 社司の系図・伝記

『祝部氏禰宜正統記』『日吉社司系図』『当家近代伝』『当家旧代伝』『日吉社成一流近代家伝』『当家近代霊位』『山王宇志丸伝』

## ⑥ 社司の補任・叙位・任官

『日吉社司位階之記』『日吉社司位階記』『希烈正三位願記』

## ⑦ 社領・家領

『日吉社領并神職姓名秩祿簿』『日供領社司中惣納 収納方百姓付』『安政六年未十一月旬申御供料 御家領収納帳』

## ⑧ 秘密社参

『秘密参社口伝記 全』『近代宮仕仲参社之記』『秘密社参記』『秘密社参 秘密印相二事ニ付テ聞書』『秘密参社先達法系図』

## ⑨ 神仏分離

『明治辛未二月四日上知達書写』『日吉神号改称伺書之写并両所塔取除之事』『奉願口上覚(戊辰十月)』

## (二) ① 山王一実神道

『日吉密記』『和光同塵灌頂切紙十帖』『山王秘記』『金剛秘密山王伝授大事』『一実秘記』『山王秘法類抄出記』

## ② 両部神道

『御流神道三才和歌秘伝』『三和流守札符之案』『神道灌頂三輪流諸印信』（『神道雑々記』所収）

## ③ 吉田神道

『三元中壇秘儀次第 上』『中壇祭祀次第』『陰陽壇秘儀次第』『神道妙行護摩供次第』『神元記』『行用』（二種類）『豊秋津嶋卜定記』

## ④ 伊勢神道

『倭姫命世記』

## (三)

## ① 希声の編著

『記伝筆抄』

## ② 希烈の編著

『大祓詞古伝』『辛未壬申詩案』『四月二十三日偶成』『幽独晤言』卷五・卷九『咀華集』『冬日雜述』『確言』『安政乙卯草稿』『西隱書画記』『汎亭雜抄』

## ③ 希璵の編著

『三天秘考』『家学備忘』

## ④ その他、編著者不明

『祝部氏倭歌集』『香雪小集』『西游紀行』

（四）その他としては、他社・他家関係（『諸社祠官系譜 全』『近江滋賀郡白鬚大明神社略縁起并奉加帳写』『松尾社職次事』）、天台宗関係（『梨本御系図』『青蓮院門跡』『輪王門室略伝』）、国学関係（『平田翁贈伴翁書 全』『平田翁破仏論 全』『伊吹能

舎先生著撰目録』、有職関係（『諸礼之作法』『装束着用抄』）などがあり、多岐に亘っている。

生源寺家文書の中核をなすのは、もとより(一)の日吉社・社家関係文書である。江戸期を中心とする日吉社の研究には、叡山文庫止観院・別当代蔵の日吉文書と並び不可欠の史料とされよう。

(二)は近世神道史研究の上で興味深い史料であると思われる。中世に発生した諸流神道が近世の神社・社家に如何なる形で受容され、機能していたのかという問題は未だ十分に解明されていない。日吉社は山王一実神道の拠点であったと思われるが、その内実は先述の如く一概に割り切れるものではない。既に行丸の時代には吉田神道の影響が及んでおり、慶長年間迄には山王祭の祝詞を吉田流に改変している<sup>(14)</sup>。その後貞享事件により日吉社の祭祀からは吉田神道色が一掃されたが、社家の内部においては行法が修され<sup>(15)</sup>、近在の社家にも伝授していた形跡がある<sup>(16)</sup>。また両部神道の系統に属する三輪流神道も流入しており、日吉社家が「日吉兼三輪惣官」「日吉三輪神道惣官」などを名乗り、近江を中心とする近在の社家に「神道三輪裁許状」を下している<sup>(17)</sup>。日吉社家が三輪流神道を標榜しているのは、日吉大宮の祭神・大己貴神が大和の三輪山から勧請されたという縁由に基づくものであろうが、その経緯は今後明らかにすべきであらう。この様に近世日吉社家には山王一実神道・吉田神道・三輪流神道の三流派が伝承されており、生源寺行整記の『大日枝三和神道祭法伝受系図』などは、この三流を混淆した独特の内容となっている。また幕末においては国学の影響も及んでおり、生源寺業雅・樹下茂仲<sup>(18)</sup>・樹下茂国<sup>(19)</sup>らが国学者として名をなしている。殊に茂国は維新政府の神祇事務局権判事に任じられ、神仏分離政策の先鋭的リーダーとして、日吉社において過激な廃仏毀釈を行なっている。こうした行動の背景には幕末維新期の思想的状況のみならず、近世を通じての日吉社と天台宗・延暦寺との緊張・対立関係が作用していると考えられ、思想・制度両面からの通史的研究が望まれる。その資料として(二)の文書は貴重な利用価値があろう。

(三)は文人、学者として知られた希声・希烈・希璵の三代の社司の編著が大部分を占める。これら社司の文壇交流や学系、文学史的位位置については私の力量の及ばないところであり、専門家の研究に俟ちたい。この三代の社司は「生源寺家文書」の多数を筆写しており、参考のために略伝を記しておくに止めたい。

希声は安永五年（一七七六）に生源寺行整の長子として誕生。寛政二年（一七九〇）。九月に従五位に叙され、権禰宜に補任。

同四年小日枝禰宜となる。文化三年（一八〇六）七月初名の希行を希声と改めている。同四年二月社司を辞職して隠居。以後は琴姓、梅辻氏を名乗り、京都に居住して文人生活を送った。字は延調・無絃。春樵・愷軒と号して『平安人物志』<sup>(20)</sup>には詩人・儒家として名が見えている。安政四年（一八五七）には家稿十編を叡覧に供えたという。同年二月十七日八十二歳で卒去。墓所は高台寺。長子梅辻一学（攸弦）、次子梅辻平格（更張、彩連）も儒家・書家・文人であった。<sup>(21)</sup>希声の著作は相当数に及んだと思われるが、<sup>(22)</sup>「生源寺家文書」中には極めて乏しい。おそらく隠居後、京都転住の際に希声個人の蔵書は移されたものと想像される。

次に希烈は天明五年（一七八五）二月に行整の四男として生まれ、同年四月に一旦樹下茂慶の養子となっている。寛政九年（一七九七）茂慶の嗣子誕生により兄・希行の養子となり、この時茂元の名を希烈と改めている。同年八月従五位下に叙され、権禰宜に補任。文化三年希声の隠居により家督となり、小日枝禰宜に補され、文政十三年（一八三〇）五月には累進して正禰宜となっている。嘉永元年（一八四八）十二月正三位に叙され、文久三年（一八六三）二月二十日に七十九歳で薨去している。墓所は西教寺。希烈も儒家・書家として名があり、字を延耀、号を星輪・草佐と称した。<sup>(23)</sup>

希璵は文化七年希烈の男として生まれ、文政三年（一八二〇）十二月元服し権神主に補任。元治二年（一八六五）二月には累進して正禰宜惣官に補任されている。<sup>(24)</sup>明治初頭には生存が確認されるが没年は未詳。寒香と号している。

以上、管見に及んだ限りの「生源寺家文書」につき解説を試みたが、なお同文書の過半は所在不明である。他の日吉杜家文書や宮仕・巫覡家の文書についても今後博搜していく必要がある。大方の御教示を頂ければ幸甚である。

## 註

- (1) 日吉大社蔵書（第一四八号）。
- (2) 『神道大系』神社編二九「日吉（昭和五八年二月刊）」所収「資料一」の中谷保二氏「日吉文書について」参照。
- (3) 同右。
- (4) 京都府立総合資料館蔵『行丸宿禰筆天正十八年条々』。
- (5) 『京都府立総合資料館蔵文書解題』（昭和六〇年三月刊）。

- (6) 以上二本は『神道大系』『日吉』所収。
- (7) 拙稿「『山王威神力古今趣十二ヶ条』(祝部行丸作)」(『神道研究集録』第九輯、昭和六〇年三月)に翻刻。
- (8) なお同蔵書は現在建設中の大津市歴史博物館に寄託される予定である。
- (9) 大神神社史料編修委員会編。吉川弘文館発行。
- (10) 生源寺業功文書(第五九号)『桂葉累塵』所収「慶長十七年三月吉日付社司中掟書」の三ヶ条中の一条。尚、同書は行丸の日吉社再興文書をはじめ江戸中期迄の日吉社関係文書を編輯したもの。
- (11) 『官幣大社日吉神社大年表』(同社社務所編、昭和一七年五月刊)所収『日吉社祝部氏系譜』、『古来ヨリ官位』(生源寺業功文書、第四一号)、『当家系図写』(日吉大社蔵書、第一四六号)等参照。
- (12) 國學院大學図書館蔵『享祿両年 桂枝沿革記』(希璵抄録) 参照。
- (13) 日吉大社蔵『一社近代編年略記 第一編甲』(第六八号)の序に「明治二十四年四月 日吉神社主典生源寺業功識」と記す。
- (14) 嵯峨井建氏「『日吉社祝詞口伝書』——公刊とその考察——」(『神道史研究』第二八卷第三号、昭和五五年七月)、拙稿「中世に於ける日吉祭の祝詞——『日吉御祭祝言』と『日吉祭礼祝言凡十三条』について——」(『大倉山論集』第一九輯、昭和六一年三月)。
- (15) 『当家近代伝』(前掲)。
- (16) 國學院大學図書館蔵『行用 船路社家へ相伝之行用案紙』など。
- (17) 國學院大學図書館蔵『諸赦免之覚 万記』には、正保四年(一六四七)以降の神道三輪裁許状が収載されている。尚、この惣官名は、中世以来の日吉社の職名である惣官とは別個の私称であると思われる。
- (18) 上記二名は安政六年版『国学人物志』に名を列ねている(『近世人名録集成』第三卷二六〇頁)。
- (19) 慶応三年版『平安人物誌』巻之中「和学」に「樹下石見守」の名が見える(『近世人名録集成』第一卷)。茂国は、明治復興時の学習院で国書を講じ、日吉社離職後は、正院御系図掛や修史局に勤務している。

- (20) 『近世人名録集成』第一卷四〇・六一・六三・九四・九六・一三六・一三八・一七五頁。
- (21) 『古来ヨリ官位』（前掲）、『当家近代伝』（同）、寺田貞次著『京都名家墳墓録』（村田書店、大正十一年十月刊）二八〇頁。
- (22) 『国書総目録』には『煙巖銷夏集』『冠辞八句集』『春樵隱士家稿』など十六編が見える。
- (23) 希璵撰『家君星翁小伝』（國學院大學図書館蔵）、『祝部宿禰氏本系帳』（日吉大社蔵書、第一五〇号）、『安巳新撰文苑人名録』（『近世人名録集成』第三卷二四三頁）。

(24) 『古来ヨリ官位』。

付記 國學院大學図書館蔵「生源寺家文書」の調査にあたっては、図書館主幹・木野主計氏と調査課長・磯貝幸彦氏に種々御便宜を計って頂いた。また京都府立総合資料館には同館蔵同文書の閲覧、複写につき御便宜を計って頂いた。目録掲載については同館の富田正弘氏よりご承諾頂いた。村上郷土資料館蔵同文書の所在については三重大学の岡田精司教授と大津市博物館立川洋氏の御教示を得た。刻印の解説については土屋昌明氏・尹連城氏より御教示を得た。末筆ながら厚く御礼申し上げる。

（國學院大學日本文化研究所嘱託研究員・文学部非常勤講師）